

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年6月30日
学校法人聖カタリナ学園

幼稚園名	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園
園長名	藤井 澄子

1. 本園の教育目標

【基本方針】

- カトリック幼稚園として「こころの教育」を中心におき、祈りの伝統を守りつつ見えな
いものへの畏敬の念を育み、園児が自分の言葉で心から祈ることができるようにして
いく。
- 幼児の楽しい経験の場としての生活環境を整え、個人差に留意しながら心身の発達の
助長を図る。
- 集団生活を通じて人間関係を育み、自主性・社会性・創造性の伸長を図る。

【教育目標】

- ①小規模園として「一人ひとりがたからもの」をモットーに全園児に配慮し、安心して園
生活を過ごせるように教育環境を維持していく。
- ②小学校、実習生、異世代等との多様な交流を通して、園児が社会性を身につけ自分の意
見を表すことができるとともに、人に優しい人格を育てる。
- ③園児一人ひとりが「落ち着いた姿」で小学校に入学できるよう、幼稚園としての教育力
向上に努める。

【目指す子どもの姿】

- だれとでも仲良く遊べる子ども
- よく聞き、よく見、よく考えてやりとおす子ども
- 良心の声に従って行動できる子ども
- 神の恵みに感謝し、「ありがとう」と「ごめんなさい」が言える子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 「こころの教育」の教育力を上げる。
 - ② 学校評価を充実させる。
 - ③ 園児募集対策を効果的に展開する。
 - ④ 新制度への移行を検討する。
- (追加項目) ○新型コロナウイルス感染対策を検証する。

3-1. 評価項目の達成及び取り組み状況（本年度の重点目標）

評価項目	結果	取り組み状況
①「こころの教育」の教育力を上げる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が縦割りと横割りの担任として経験を積み、落ちついた態度でクラス全体を見通して園児に目を向けることができるようになってきた。その結果、園児一人ひとりの思いに気づき、思いやりや優しい心が育つような言葉かけや配慮により、こころも身体も大きく成長した15人の年長児を送り出すことができた。 ・新採教員は、年少の担任として、また、縦割りの副担任として先輩教員から子どもへの関わり方を学びつつ、年少児との1年間の生活を無事に終えることができ、教育目標を理解した関わりを学んだ。 ・コロナ禍での園児の姿は、例年より泣き声が少なくなり、子どもなりに世の中の状況を察知して「我慢をするところ」が身についてきたのではないかと感じている。
②学校評価を充実させる。	B	<p>【学校関係者評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価委員として4人の方々に就任いただき、令和2年度6月に令和元年度の学校評価を公表した。 ・委員からは、今後の課題として、「子育て支援の一環として取り組んでいる“園庭開放”や“カタリナ ピッコロ”の活動状況を掲載・公表し、聖カタリナ大学の“ぽけっと”のような地域子育て支援事業への取り組みも必要ではないか」との意見をいただいた。 ・年度末には「学校評価委員会」を予定していたが、コロナ禍での開催が難しく、園と各評価委員間でのやり取りに終始した。 ・コロナ禍でありながら、各委員が1回以上本園の行事に参観いただくことができた。 <p>【保護者アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの見直しについては、令和2年度は、新型コロナウイルス対策でこれまでの園生活とは異なる1年間であったため、アンケートの質問事項については前年と同様にし、コロナ関連の問いを新設した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回収率は72.27%と例年に比べて低かった。 ・個々の要望・意見の中に、「子どもたちや保護者への教員の関わりについては安心感がある」との回答が多かった一方、弁当日を月2回に減じたことについては、「少数意見を採用するようところが感じられる」との記述があった。 ・行事のビデオ販売を中止したこと（業者逝去及び購入家庭が少ないため）や「お泊り保育」を「サマーキャンプ」に変更（これまでの活動内容を1日にまとめ、宿泊を伴わない日程に変更）したことについて、「決定前に意見を聞いてほしかった」、「この行事があると説明されたので入園をさせた」等の意見が複数あった。 ・危機管理の観点及び職員の働き方改革（深夜業務回避）を理由に「宿泊部分」を中止としたが、行事等の内容を変更する際には保護者との十分な意見交換が必要であった。 ・次年度も保護者の声を真摯に受け止めながらアンケートの内容を見直していきたい。
<p>③園児募集対策を効果的に展開する。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総園児数60名の維持を目標としていたが、令和2年度末は54名にとどまった。 ・3歳児は18名中8名が前年度に満3歳児として入園していたが、令和2年度の満3歳児は年間で2名にとどまり、次年度の募集に影響が出た。 ・結果の分析として、 <ul style="list-style-type: none"> ①2歳になったら働きたいと考える家庭の増加により、認定こども園や保育園に預ける傾向になっている。 ②認定こども園や保育園は土曜日や長期休み中も無償で開園し、乳児からの受け入れ態勢が整っている。 ③3歳から幼稚園に入園させたいと思う家庭が減少している。 ④少子化により子ども数が減じている。 ⑤社会情勢が共働き主流となり、低年齢から子どもを預けたいとの保護者の意識変化により教育から保

		<p>育への志向が強くなっている。</p> <p>⑥新型コロナウイルスにより、入園説明会が9月以降、願書受付が10月以降となり、園見学の機会や日数が制限され、「カタリナピッコロ」の開催も減じられた（9回／年開催）（資料／令和2年度本園のホームページ）。</p>
④新制度への移行を検討する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から新制度へ移行するべく準備を行い、学園内の承認手続きや松山市とのやり取りを経て、令和3年4月より移行することが決定された。 ・これまで私学助成園（愛媛県運営費補助金を受給）であったが、新制度移行後は松山市の子育て支援制度（施設型給付）の対象園となる。 ・新制度では収容定員とは別に「利用定員」を設定することになるほか、一般に、小規模園に対する手当（加算措置）が厚いとされている。
○新型コロナウイルス感染対策を検証する。 （※重点追加目標）	A	<p>【行事の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度はコロナ感染防止のため、全ての行事について中止や縮小等の対策を講じ、感染対策を徹底して実施した行事は、資料（令和2年度行事予定参照）のとおりである。 ・主な園行事に係る感染防止措置は、以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ①夕涼み会（8月）：当日に本学大学生に感染者が出たため急遽当日の午後に開催中止としたが、保護者の理解が得られ、年間を通して感染対策に対する保護者からのクレームは無かった。 ②運動会：実施日を平日に変更し、各家庭1名の人数制限と園児のみ競技内容に絞り、1時間で終了した。園児の練習負担が軽減したほか、保護者からも「ゆっくり見学できた」と好評であった。 ③参観日：平日開催とし、学年毎に分散して人数を減じ、部屋の外からの参観とした。 ④クリスマス発表会・おひなまつり発表会：聖カタリナホールの座席を指定席とし、各家庭2名の人数制限をした。 ⑤卒園遠足：平日に日程変更し、近場でのイチゴ狩りと法橋公園での遊びや海遊びとした。

	<p>【感染防止対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内では感染対策教育を徹底し、密を避け、手洗い、うがい、マスクの着脱等を指導し、日々の生活で定着できるようになった。 ・保育中はマスク着用を原則とし、外遊びや運動遊びにおいては呼吸困難回避のため、マスクを外すことを基本として活動した。 ・家庭との連絡を密にし、毎日の検温と体調管理を共有したほか、緊急事態宣言中は自主登園日を設けて、家庭の判断による登園を実施した。 ・食事の際には飛沫防止パーテーションを各部屋に設置し、縦割り2クラスで行っていた昼食を横割り3クラスに変更して人数を減じた。 ・年長児及び年中児は年少児との食事の時間差を利用し、食後には十分に遊びこむことができた。 ・年間を通して若者（大学生）との接触を避けるため、学生ボランティアは断り、必要な場合は人数制限をした上で受け入れた。 ・コロナ禍でも縮小開催できた各行事を通して、園児達自身も喜びを持って練習や本番に臨むことができ、達成感や自信に繋る成長がみられた。 ・園児たちは、危機の状況を認識しながらも開催行事にはむしろ楽しみを集積した姿があり、例年に勝る思い出作りができた。 ・感染対策により、年間を通して子どもの病気が少なかったほか、泣き声も少なく、安定した園生活を送ることができた。 ・本園のコロナ感染対策について保護者からは「安心感があった」との意見をいただいた。
--	--

3-2. 評価項目の達成及び取り組み状況（その他）

評価項目	結果	取り組み状況
⑤ その他 II. 地域との幼児教育センターとしての役割	B	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に「令和2年度幼・保・小 保育参観」の会場園として、近隣の先生方に公開保育を実施し、担当教員の保育指導計画に沿って、縦割り・横割り保育を公開した（資料／令和2年度幼・保・小連絡協議会参照）。

		<ul style="list-style-type: none"> ・参観者たちによる保育参観アンケートの結果（資料）はその後の保育活動の改善に生かすことができた。
⑤ その他 III. 安全管理	B	<ul style="list-style-type: none"> ・気温の上昇により気候変動や災害規模が拡大することに伴い、安全管理の指標が避難指示のレベルを合わせた表示となり、これまでの危機管理マニュアルを見直した。 ・特別警報、暴風雨警報に加えて、レベル4の避難指示にも速やかに対応できるよう、日々の訓練と園児への意識づけ、保護者への周知を行った。
⑤その他 IV. 人事管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・副園長を世代交代し新体制で1年間を終えたが、スピード感を持って業務にあたることができ、職員間の連携や相互協力もスムーズに行えた。 ・各人5日間以上の有休を取得することができた。 ・タイムカードの導入から2年目となり、変形労働制に沿った勤怠管理が定着しつつあるが、一方で打刻忘れや自己判断での残業もあり、年間カレンダーの勤務設定時間を見直していきたい。 ・研修は園内や自宅でのリモート研修となったが、2月、3月末の園内研修は講師を園に招いて対面にて行うことができ、今後も継続したい。
⑤その他 V. 財務管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年10月より無償化が始まって以来、これまでとは異なる会計処理となったが、法人本部の協力を得られ、無事に乗り越えることができた。 ・毎年、監査法人（公認会計士）による会計監査を実施しており、財務管理は適切に処理できている。 ・令和3年度は新制度の園として出発することになり、新たな対応を求められる。
⑤ その他 VI. 評価と情報の公開	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価を受けたことで、各教員は自身の課題を整理でき、情報の公開による教員間の意識統一ができつつある。 ・コロナ禍で計画倒れが多い中、各教員は本園の目標である「こころの教育」を見失うことなく子どもと関わることができ、日々の活動を公開することができた。

4. 総合的な評価結果

評価結果	理 由
C	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は世界的なパンデミックとなり、計画や目標に向かっていけないことが多かった。 ・感染が身近に拡大し、子どもの命を守ることと健やかな学びの保障の両極端を見据えながら、難しい選択を強いられる場面が多々あったが、15名の卒園式を無事に迎えられ、成長をして巣立っていったことを心から嬉しく感じた1年であった。 ・コロナ禍の状況にありながら、子どもたちは元気に過ごすことができおり、その姿や生きていく力に教員が励まされ、学びや気づきが多かった。 ・全職員で保護者への対応を丁寧に行うことを心がけ、園の方針に理解を示していただけたことは良かった。 ・コロナ禍での園生活や行事を全て見直し、経験の無い多くの対応にも教職員が協力して迅速に行うことができ、1年間を乗り切れた。 ・9月に本園を会場として「令和2年度幼・保・小 保育参観」を開催し、地域の幼児教育センターとしての役割を担うことができたことは、教員にとっても保育を見直す貴重な機会となり、その後の教育活動に生かすことができた。 ・リモート研修が主流となる中、2月5日に、聖カタリナ大学の高橋味央助教を講師として、「愛着とトラウマ」をテーマに対面研修を開催したほか、3月27日には、中山紀美子シスター（聖ドミニコ宣教修道女会管区長）による講話を受講し、カトリック幼稚園で働く者としての心構えを学ぶことができた。 ・本園は令和3年度から新制度の「施設型給付」の幼稚園に移行することが決まり、小規模園として新たな出発をする。しかし、令和3年度の3歳児が4名となり、令和4年度に向けた園児募集対策が大きな課題である。 ・令和3年度より、2歳児の受け入れを開始することを決め、春休みに「ひよこ組」の部屋を整備し、1名が入園した。 ・保護者アンケートの見直しは令和3年度に行うこととする。 ・令和3年度は創立50周年を迎え、記念誌を発行する予定である。これまでの伝統を引き継ぎながら新しい時代に対応できる園となっていけるよう、体制を整えていきたい。また、本園が地域に愛される園となっていくため、園内外の関係者から忌憚のない評価をいただき、今後の園運営の改善に生かしていきたい。

※上記「3.・4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 学校関係者評価委員会の評価

1) 学校関係者評価の内、今後も継続して取り組むべき事項（プラス評価）

<p>評価項目① 「こころの教育」の教育力を上げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック幼稚園として「こころの教育」を中心に、日々心から祈る日課の中で、心身ともに健やかに成長できている。 ・「やさしさ」の目を大切に育てていることが保育指導計画からも伝わり、先生方の関わりに子どもたちへの深い愛情が感じられる。 ・子ども同士、子どもと教師、子どもと保護者等のつながりを意識しながら社会性の育成や自己有用感が持てる実践を行っている。 ・子どもたちの先生方への信頼が保護者の安心感につながっている。 ・コロナ禍における子どもたちの変化を見逃さず、丁寧な言葉かけや子どもがのびのびと過ごせる教育活動の工夫を行いながら教育目標の具現化に取り組まれている。
<p>評価項目② 学校評価を充実させる。</p>	<p>【幼・少・保 保育参観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼・少・保 保育参観」が実施されたことにより、スムーズな小学校への連携が行われた。 ・「幼・少・保 保育参観」を見学し、4月から9月までの子どもの姿や成長を捉えた上で、保育が展開されており、困り感の予想される子どもへの配慮点も加味されながら、どのクラスの子どもも真剣な眼差しで取り組んでいることに感心した。 ・先生方の言葉かけや促し援助がさり気なく、心地よく伝わっており、子どもたちは笑顔で制作を楽しんでいる様子が見られた。担任教諭と子どもたちの信頼関係ができていてことでクラスの母集団が整っており安心の空気が流れていた。 ・4・5歳児クラスの集中力や夢中になる姿があり、子どもが主体的に助け教え合っている姿から温かいコミュニケーションの場面が見られた。 <p>【全体を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時勢にあった変化を柔軟に取り入れている姿勢が良い園であり、園の方針については肯定的な意見を持つ保護者が多い。

	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の目が園児に行き届いており、子どもたちの先生方への信頼が保護者としては安心感につながる。 ・心身ともに健やかに成長できる園であり、どの子どもも自己肯定感が高まっている。 ・子ども自ら遊びを選択し、やらせる保育ではなく幼児期のもっとも重要な主体性を育む環境が整っている。 ・先生方が一人ひとりに丁寧に寄り添い、保護者の安心感につながっている。 ・行事に向けてのチームワークや子どもの困り感に素早く気づき援助やサポートが良好である。 ・先生方のチームワーク、保育のスキルが長けており、日々主体的に業務にあたられていることで、主体的に遊びこむことができる子どもたちの姿があるのだと感心した。 ・日々の保育のみならず「カタリナ ピッコロ」活動も充実しており、親子の触れ合いやコミュニケーションを通して安心できる広場になっていることがHPからも感じられる。
評価項目③ 園児募集対策を効果的に展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・園児募集において、園の教育力を積極的にアピールする努力はされているのではなかろうか。 ・園児数が減じていることを残念に思うが、子どもが成長する大切な時期に、園と親と子どもの関わりを通して親子が成長できる魅力の多い園である。
(追加項目) ⑤ 新型コロナウイルス感染対策を検証する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの健康管理の徹底や行事の柔軟な変更等、適切に対応され、コロナ禍においても教育活動の価値が減じることなく進められていることが素晴らしい。 ・伝統的な保育がコロナ禍でありながら充実していることで子どもの成長が著しく感じられた年になったのではないか。 ・運動会や制作展・発表会の行事では、コロナ禍に留意した環境で人数制限や感染予防の徹底が整備され、参観者が安心して見学できた。

2) 学校関係者評価のうち、今後、改善・解決に向けて取り組むべき課題 (今後の課題)

評価項目② 学校評価を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検報告書において、園の教育課程の見直しながされているのかどうかの記載がないことは疑問に感じられる。
評価項目③ 園児募集対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者の意向」への取り組みについて、入園児の保護者のニーズにどう対応するかが重要であり、保護者の園評価が重点目標の園

効果的に展開する。	<p>児募集に影響したのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園選びにおいては、保護者が参加しやすく子どものことをよく見てもらえるという印象を持っていただくこと、また、実際に園に足を運んでいただき、肌で園の良さを感じていただくことが効果的ではないか。 ・2歳児は保育所や認定こども園の利用が多いのではないかと思うが、新制度への移行で生き残りを模索していく際に、大学の附属幼稚園であることを再認識されることも必要ではないか。
-----------	---

6. (1.~5.を踏まえて) 今後、重点的に取り組むべき課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育課程のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を受け継ぎ、「こころの教育」を推進し、園児自らが自分の言葉で祈ることができるようにしていく。 ・モンテッソーリ教育と宗教カリキュラムを有機的に採り入れた本園独自の教育課程を再構築する。
2	園児募集力の回復	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、3歳児が4名となり、年長1名の入園を合わせて41名からのスタートとなった。 ・令和3年度は19名が卒園するため、令和4年度の入園児数をこの数に近づけなければ園児総数が減じていく。 ・新制度での利用定員を45名としたが、この人数を確保できるよう令和4年度の募集対策に力を入れていく。 ・令和3年度より満3歳の入園希望者には2歳児の4月から受入れを開始したことを地域にアピールしていく。 ・満3歳児及び2歳児を確保できるよう力を入れる。
3	保護者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・継続課題である保護者アンケートの内容を見直し、園の現状把握と改善につながるよう、質問内容を改定する。 ・保護者アンケートの回答（特にクレームや要望）に対し、対応内容や園の方針を公表する等、丁寧な対応に留意する。
4	安全対策の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画及び危機管理マニュアルを見直し、気象変動に対応できる内容にしていく。

以 上